

「キリストにあって変革され続ける人生 パート2」

主任牧師：重田 稔仁

<メッセージ>

マルコの福音書 2：18～22

テキストの背景

今朝のメッセージのテキスト中にある、『新しいぶどう酒は、新しい革袋へ入れるのだ』という2：22の聖句はイエス様が収税人レビに招待されてレビの友人や知人と一緒に食事をしている様子に疑問を抱いたファリサイ派の律法学者たちに対して語ったイエス様の神の国の奥義についての文言です。

この聖句は岸先生にJTJ宣教神学校設立を決意させた言葉だと伺っていますが、イエス様が語った(新しいぶどう酒は発酵し続けるので伸縮性が大きい新しい革袋に入れなければならない)という譬は、キリストにあって神の国に生きる喜びを味わったものは、その喜びに相応しい生き方をするという意味です。

古いぶどう酒と古い皮袋とは何を指しているのか。

また、新しいぶどう酒と新しい皮袋とは何を指しているのか？

今朝は、先週に引き続きこのみことばを軸に私達のクリスチャンライフを見つめ直す機会を持ちたいと思います！

朗読

マルコの福音書 2:18～22

「ヨハネの弟子たちとファリサイ派の人々は、断食していた。そこで、人々はイエスのところに来て言った。「ヨハネの弟子たちとファリサイ派の弟子たちは断食しているのに、なぜ、あなたの弟子たちは断食しないのですか。」 イエスは言われた。「花婿と一緒にいるのに、婚礼の客は断食できるだろうか。花婿と一緒にいるかぎり、断食はできない。しかし、花婿が奪い取られる時が来る。その日には、彼らは断食することになる。だれも、織りたての布から布切れを取って、古い服に継ぎを当てたりはしない。そんなことをすれば、新しい布切れが古い服を引き裂き、破れはいつそうひどくなる。また、だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりはしない。そんなことをすれば、ぶどう酒は革袋を破り、ぶどう酒も革袋もだめになる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。」

マルコによる福音書 2:18-22 新共同訳

導入

イエス様が楽しく罪人達と食事をしている様子にファリサイ派の弟子達、すなわちユダヤ教の律法を熱心に守る人達は戸惑ったようです。

そこで彼らは、今回は直接イエス様に「ヨハネの弟子たちとファリサイ派の弟子たちは断食しているのに、なぜ、あなたの弟子たちは断食しないのですか。」尋ねたのです。

何故、断食についてファリサイ派のユダヤ人達はイエス様に尋ねたのか。

それは彼らが何はさておき律法を厳格に守ることに命をかけて生きていたからです。ファリサイ派のユダヤ人にとって断食は「敬虔さ」を表す、素晴らしい行為であり、彼らは律法で定められている以上に数多く断食をしていました。ちなみにイエス様の時代には、重要な祝祭日や、婚礼の宴の最中には断食は行われませんでした。普段は週二回、定期的に「断食」を行う習慣が定着化していたようです。そんな彼らの目に罪人と食事をするイエス様は敬虔な律法の教師として映らなかったのです。

ファリサイ派の人々の疑問に対してイエス様は、

「花婿と一緒にいるのに、婚礼の客は断食できるだろうか。花婿と一緒にいるかぎり、断食はできない。しかし、花婿が奪い取られる時が来る。その日には、彼らは断食することになる。」と返答なさったのですが。花婿すなわちイエス様と一緒にいるとき、イエス様に従う人が断食などできないでしょうと、反論したのです。それは貴方達が祝い事や祭り時に断食しないのと同じですよ！そのことを古い布に新しい布を継ぎ当てる、愚かさ古い皮袋に新しいぶどう酒を入れる矛盾を喩えにして語ったのです。

本論

イエス様が語った古い葡萄酒、古い皮袋とは、新しいぶどう酒、新しい皮袋とは一体何を指しているのか。

古いぶどう酒とは、

律法の戒めを守り、律法の要求を満たすことよって義とされる教え。

古い革袋とは、

律法を遵守する律法主義に自らのアイデンティティーを見出す生き方。

新しい葡萄酒とは、

律法の要求を完全に満たし人の罪を贖うため十字架に磔にされ、死んで三日目によみがえられた神の独り子キリストを信じることで義とされる神の恵み。

新しい皮袋とは、

神の恵みに生かしてくださるキリストのうちに自らのアイデンティティーを見出す生き方。

それは、キリストにあって一切の縛りから自由にされる生き方です！

私たちクリスチャンは皆、新しいぶどう酒を入れる新しい皮袋のような存在です。

しかし、私たちの多くが以前断食しなければならぬ、安息日を守らなければならぬと言

った

～してはならない、～しなければならぬといったメンタリティーで生きていいないでしょうか。

何故、多くのクリスチャンがキリストの福音によって神の恵みに与っていきながらくしなければならぬ的な生き方をしているのか。

その理由、原因は？

それは伝統や敷きたりに拘る教会の制度、教えが原因だ！保守的なクリスチャンのメンタリティーが原因だ！という声をよく耳にします。私も若い頃はそう思っていました。

果たしそうでしょうか。

多くのクリスチャンがキリストの福音、神の恵みを信じていながら律法主義的な生き方をしている理由は、神の恵みに生きるということを勘違いしているからではないでしょうか。

どう勘違いしているか。

それは神の恵みに生きることを<神の恵みにふさわしく生きなければならぬことだと勘違いしている！すなわち、自分が頑張って、努力して生きることだ。。。

人がキリストによって神と人とを隔てていた罪を拭き去られ、憚ることなく神様との交わりに生きる、ことを指します！

それはまさにレビやその仲間達、娼婦たちが神の独り子イエス様と共に食事したように！

これが、イエス様が教えた<新しいぶどう酒は、新しい皮袋に入れる>という喩えの真意です！

みなさん、この新しい皮袋としての生きる、すなわちイエス・キリストとの交わりに生きる喜び

の実感ってありますか。

たまに、ときどき。昔はあった。そんな人の話、聞いたことあったな。

全くない、そんなの知らない。

結論

イエス・キリストとの交わりに生きる喜びって、どんな喜びでしょうか？！

今朝、どのような心、思いで、この礼拝に来ましたか。

どのような備えをして来ましたか。みなさん、神様を礼拝するためにそれなりの準備をしてきたのでは。例えば身体を洗って、清潔な服を着てみたい。あるいは、やましい思い、欲望、醜い感情を全て自宅に置いて出てきたみたい。

もし、私たちがイエス様との交わりに生きる幸を知っていたら、私たちは人生に暗闇、どん底にいる人はそのどん底で、有頂天になっている人はその天の頂きで、平凡に生きている人は、その平凡な中でイエス様がこの私を愛してくださっていることを知っています。すると、

どん底はどん底なりに、有頂天は有頂天なりに、平凡は平凡なりにイエス様の私への変わらない憐れみ、慈しみへの感謝と喜びがうちから湧き上がってきます。

私の経験上、その喜びはどん底にいる時ほど大きいはず！

何故なら、私の心の闇が濃いほどほど、苦悩が深いほど、自分なんかダメだ~と思うときほど神様の憐れみが身に染みるからです。そして神様への感謝が湧いてきてその感謝が喜びに変わるからです！

これが主イエスにあって変革され続ける新しい皮袋としての生き方です。

クリスチャンの最大の祝福です！

この幸いを、日々味わわせていただきませんか。